



(写真：OUIK)

心蓮社庭園「緑・水・音」 ～都市の自然創出～

金沢の庭園研究セミナー:

日時:6月25日(日)

13:00～15:00

場所: 心蓮社

(金沢市山の上町4-1-1)

金沢市には、市指定文化財の日本庭園が6ヶ所あります。日本庭園は、築山、植栽、池泉、石造物、建物などで構成され、人と自然が一体となった総合芸術作品であり、かつ、都市の生態系サービスを提供する基盤ともなっています。

金沢市の生物文化多様性を保全継承していくためにも、美とエコロジーの両立に関わる庭園の管理や伝統的な造園技術の継承が課題であるといえます。

本セミナーでは、金沢市の庭園の中でも、心蓮社庭園を舞台にして、実践的な有識者をまじえ、今後の金沢での持続可能な庭園保全や市民参加のあり方を考えます。



UNITED NATIONS
UNIVERSITY
UNU-IAS

主催:

国連大学 サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
(UNU-IAS OUIK)

協力:

-日本造園学会石川県連絡会
-金沢市

プログラム

- 13:00 – 13:05 開会の挨拶 永井 三岐子 (UNU-IAS OUIK 事務局長)
- 13:05 – 13:10 心蓮社の紹介 小島隆彦 (心蓮社 住職)
- 13:10 – 13:25 主旨説明 フアン・パストール・イヴァールス (UNU-IAS OUIK 研究員)
- 13:25 – 13:45 研究発表①「庭を聴く」 土田義郎 (金沢工業大学 教授)
- 13:45 – 14:05 研究発表②「里山の風景。自然から創造する金沢らしい庭園」 野々市 芳朗 (野々与造園 代表取締役)
- 14:05 – 14:25 研究発表③「日本庭園に隠された「雨庭」の知恵」 阿野晃秀 (京都学園大学 研究助手)
- 14:25 – 14:35 コーヒーブレイク
- 14:35 – 14:55 フリー ディスカッション
テーマ: 金沢市庭園「推進と保全」
コーディネーター: 飯田義彦 (UNU-IAS OUIK 研究員)
- 15:00 閉会

登壇者プロフィール



金沢工業大学 環境・建築学部建築学科 土田義郎 教授

庭園はその時代の世界観を凝縮したものです。どのような風景を美しいと感じていたのかを、現代に伝えてくれます。庭園には音の仕掛けが多くあります。それらの作庭意図は「暗黙知」とされていますが、徐々に失われている恐れがあります。どのような風景を音として表現しなかったのかを、現代の視点から「形式知」に変換して、その文化的伝統を保全することに寄与したいと思います。



有限会社 野々与造園 代表取締役 野々市 芳朗

戸室石を使った石組技法に関して継承者である。雪国特有の「根反り（ネゾリ）」樹形の山木と石を組み合わせる植栽方法を行い人工的作為の感じられない自然風作庭を得意としている。また、金沢職人大学校の講師を務め、造園文化の継承と後進の育成に尽力している。主な受賞歴は、平成元年 技能顕功賞 知事表彰・平成26年 現代の名工 厚生労働大臣表彰。



京都学園大学 バイオ環境学部 非常勤研究助手 阿野晃

京都大学大学院修了。2013年より京都学園大学研究助手として雨庭の導入など、都市の生物多様性のデザインを研究。現在、英国シェフィールド大学ランドスケープ・アーキテクチャー修士課程に留学中。「雨庭（あめにわ）」とは、屋根やアスファルトに降るあまみずを集め一時的に貯留し、浸透させる植栽空間のことです。これからのインフラ整備には、近年増加する豪雨災害に対応できる機能が求められる一方、人口減少社会を見すえて維持管理費を含めた社会的コストを考慮したインフラ整備が求められており、雨庭はその解決策として世界的に実践される技術の1つです。